

十三夜 ● お月見会

十三夜とは、旧暦9月13日のお月見のことをいいます。十五夜を中秋の名月と呼ぶのに対し、十三夜は「後(のち)の月」。2015年の十三夜は、10月25日です。十五夜は中国から伝わったものですが、十三夜は日本固有の風習で、秋の収穫祭の一つではないかと考えられています。すすきや秋の七草を飾って、団子をお供にお月見を楽しんでください。

★月見団子★ 団子をお供える習慣は、江戸時代からです。月を信仰の対象とし、穀物の収穫に感謝を表すため、月のように真ん丸団子を作ってお供えしたのが始まりです。

★月見団子の並べ方★ 2つの説があり、①十五夜は15個、十三夜は13個供える。②その年に満月の数を供える。平年では12個、閏年では13個。



★すすき★ 月の依代(よりしろ:神霊がよりつく対象物)としての役割があります。本来稲穂なのですが、9月は稲穂がなかったため稲穂に似たすすきを供えるようになったといわれています。また魔除けになるとされていたので、お月見が終わった後に軒先に吊すと一年間病気をしないという言い伝えもあります。

★月見団子レシピ★

- <材 料> 白玉粉:70g 水:65ml
 <作り方> ① 白玉粉に少しずつ水を加えながら軟らかくなるまでこねる。
 ② 適当な大きさに丸め、沸騰したお湯に入れる。
 ③ 冷水で冷まし、てりを出すために団子に少し風を当てる。

医療公開講座のお知らせ

当院では毎月1回『医療公開講座』を開催しています。病気、お薬、食事、運動、医療費など、様々な内容で少しでもみなさまのお役に立ちたいという思いから情報発信しています。

参加の申し込みは、
 当院正面玄関入って左手の
 地域医療連携室へお声掛けいただくか、
 こちらの番号へお問い合わせください。

春日部中央総合病院
 地域医療連携室
 TEL.048-736-1303
 (直通電話)

今後も下記の日程・内容で講座を行いますので、みなさまふるってご参加ください。

日付	内容	講師
平成27年10月20日(火) 15:00~16:00	放っておくと怖い大動脈瘤 ～破裂を未然に防ぐには～	心臓血管外科 玉井 宏一 医師
平成27年10月26日(月) 15:00~16:00	人工関節置換術について ～痛みなく歩くための治療～	整形外科 部長 片山 一雄 医師
※10月26日の医療公開講座は、春日部駅近郊にある「ふれあいキューブ」で開催予定です。 会場は150名入ることができ、当日は看護師などによる健康相談コーナーも同時開催予定です。		
平成27年11月24日(火) 15:00~16:00	放射線被ばくについて(仮)	放射線科 佐藤 圭介 技師

編集後記

少しずつ秋を感じられるようになってきましたね。秋といえば、食欲の秋というフレーズに負けてしまうこともありますが、気候的に体を動かしやすい季節です。普段は体を動かすことが少ない方も、この秋から、何か運動を始めてみてはいかがでしょうか。お体を大切にお過ごしください。

地域医療連携室

IMSグループ 医療法人財団 明理会

春日部中央総合病院

〒344-0063 埼玉県春日部市緑町5丁目9番4号
 TEL.048-736-1221 FAX.048-738-1559
<http://www.kasukabechuo.com>

認定施設 厚生労働省臨床研修指定病院/日本医療機能評価機構認定病院/日本内科学会認定医制度教育関連施設/日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設/日本消化器学会専門医制度関連施設/日本循環器学会認定循環器専門医研修施設/日本心血管インターベンション治療学会研修施設/日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設/腹部大動脈瘤ステントグラフト実施施設/胸部大動脈瘤ステントグラフト実施施設/日本外科学会外科専門医制度修練施設/日本消化器外科学会専門医制度修練施設/日本整形外科学会専門医研修施設/日本脳神経外科学会専門医認定制度指定訓練施設/日本泌尿器科学会認定専門医教育施設/日本透析医学会専門医制度教育関連施設/日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設/日本麻酔科学会麻酔科認定病院/看護大学・専門学校実習病院



「プラザイムス」は、患者さま、ご家族のみなさまに院内やIMSグループの医療活動、病気に関する情報をお伝えするコミュニケーションペーパーです。

パーキンソン病とは？

名前は聞いたことがあるけど、よく分からない、パーキンソン病とはどんな病気でしょうか？神経難病の中でも最も多い、パーキンソン病についてご説明させていただきます。

神経内科 川西 康太郎 医師

【パーキンソン病ってどんな病気？】

脳が出す運動の指令がうまく伝わらず、スムーズに動けなくなる病気です。難しそうな病名ですが、これは、1817年にジェームズ・パーキンソン医師が初めて報告したため、それにちなんでつけられた名前です。パーキンソン病は50～60歳代で発症することが多く、ゆっくりと進行します。年をとるにしたがい増える傾向にあります。高齢者に多い病気ですが、若い人でも発症することがあります。10万人あたり100～150人の方がこの病気にかかっています。多くは遺伝しませんが、年齢の若い段階で発病した方の中には、遺伝子の異常がみられる場合があることが解ってきています。

【どうしてパーキンソン病になるの？】

パーキンソン病は、脳の奥にある中脳の黒質という部分の神経細胞が次第に減少し、その神経が動くときに使うドパミンという物質が減少します。ドパミンは、運動の仕組みを調節する働きを担っているため、ドパミンが減ることにより、動きが遅くなったり、体の緊張が高くなったりしてパーキンソン症状を起こすと考えられています。なぜ神経細胞が減少するのかは、不明な点が多く十分に解明されていませんが、複数の要因が関係していると考えられています。正常のドパミン量の20%を下回ると発病すると考えられており、別の神経伝達物質とのバランスが崩れる事も症状の理由とされています。

【パーキンソン病って治るの？】

残念ながら、パーキンソン病を完全に治す治療法はまだありませんが、お薬により症状はかなりよくなりますし、寿命が短くなることもないと言われています。治療を受けている多くの方が病気を発症するまでと同様の生活をおくっています。

【パーキンソン病の症状は？】

主に、手足がふるえる(振戦)、動きが遅くなる(無動)、筋肉が硬くなる(固縮)、体のバランスが悪くなる(姿勢反射障害)、といった症状がみられます。これらによって、顔の表情の乏しさ、小声、字が小さくなる、屈曲姿勢、小股・突進歩行などの運動症状が生じます。片側の症状から始まり、他の部分へ進行する特徴があります。また、運動症状以外にも、嗅覚や味覚の低下、便秘や頻尿などの自律神経の症状、不眠などの睡眠障害、うつ症状などの精神症状、認知機能障害などの非運動症状もみられます。

(中面につづく)

【パーキンソン病の診断は?】

診察が重要であり、主に症状や経過から診断します。CTスキャン、MRI検査、核医学検査などの検査が行われる場合がありますが、主にパーキンソン病とよく似た症状の別の病気ではないことを確かめるために検査を行います。診察と検査の結果、パーキンソン病が強く疑われた場合には、症状にあわせて経過観察または服薬治療を行います。

【パーキンソン病の治療は?】

① 薬物療法 不足したドパミンを補う事で症状を緩和する薬物治療が最も重要です。また、脳の中のドパミンの働きを補助する部位に作用する複数の薬が使用できる様になっています。薬の種類や量については、それぞれ

の患者さんの症状、年齢などを考慮して調節します。

- ② リハビリテーション 運動症状が主なパーキンソン病では、様々な運動療法が症状の軽減や苦痛の緩和に有益な治療となっています。
- ③ 手術治療 最近では脳深部刺激療法(Deep Brain Stimulation: DBS)と呼ばれる新しい治療法があり、原因を解決する手術では無いので病気の方全てに勧められる方法ではありませんが、特定の病状の方には、優れた症状緩和効果を示す場合があります。

【診察、治療はどこで受けられるの?】

当院の神経内科で担当しておりますので、気になる症状がありましたらお気軽にご相談下さい。

CS委員会について

CS委員会の役割とは... CS委員会は、Customer Satisfaction(顧客満足)の略で、当院に関わる方(患者さま、ご家族、各医療機関、業者など)へのサービスを促進することを目的とし、問題点を抽出・改善策の検討・実行計画の立案実施(周知)を行います。活動内容としては、院内各所に「意見箱」を設置し、集計・改善や年1回「患者様満足度アンケート」を実施。問題点の見直し、改善策の成果の確認をします。

CS委員を中心に各部署身だしなみチェックや、新人対象の接客対応の研修会を開催しています。

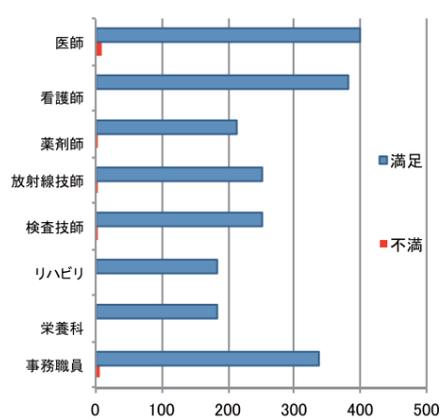
今後も、委員全体一丸となりCustomer Satisfactionの向上に努めたいと思います。

昨年引き続き、「患者様満足度アンケート」を実施しました。回答いただいた結果を一部抜粋の上、報告させていただきます。

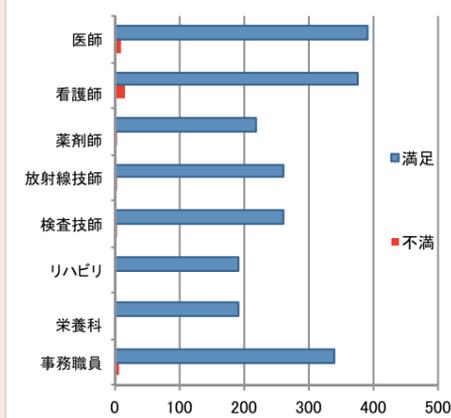
期間：平成27年7月13日～7月25日(2週間)

回答数：650枚(外来487枚、入院163枚)

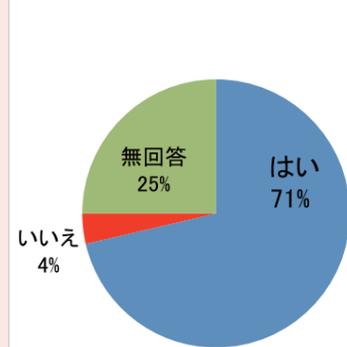
職員の身だしなみについて



職員の言葉使いについて



今後も当院にかかりたいか



※今回のアンケート集計結果は1階B棟とC棟を繋ぐ連絡通路に掲示してあります。

まとめ

多数のご意見をいただき、誠にありがとうございました。患者さまからいただいたお褒めの言葉、お叱りの言葉を真摯に受け止め、受診をしたみなさまに「今後もかかりたい病院」と思ってもらえるような病院を目指し精進していきます。

アンケートは上記期間で行いましたが、院内各所に「意見箱」を設置しています。お気づきの点がございましたら、ご意見を賜りますようお願いいたします。「意見箱」でいただいたご意見と回答については、正面玄関入って左側の掲示板で見られます。

新たな認定看護師のご紹介

認定看護師とはそれぞれの分野において、熟練した技術と知識を持つことを日本看護協会から認められた看護師です。このような看護師を育成、活用しながら、患者さまやご家族、また地域のみなさまに喜んでいただける看護を目指していきます。

今年度は2名の認定看護師が誕生しましたので、ご紹介させていただきます。

看護部キャラクター
はるちゃん



*認定看護師になるには...

- ① 看護師免許取得後、5年以上(うち3年以上は認定分野の実務があること)の実務経歴
- ② 教育課程を有する教育機関への受験
- ③ 6ヶ月615時間以上の教育課程の修了
- ④ 認定審査(筆記試験)



手術看護認定看護師 小倉 佳之

手術室で働く看護師とは、医師にメスを手渡すなどの、直接手術に携わるイメージが強いのではないかと思います。実は様々な仕事をしています。手術の順番や担当者の決定、手術に必要な機械の手

配、手術中の体位の工夫などもそれらの中の一つです。また、手術前に患者さまの病室に伺い、状態の把握や手術室での流れについて説明する仕事もあります。これは「術前訪問」と呼ばれています。「手術」という言葉から連想されるイメージは患者さまによって様々ですが、私たち手術室看護師は、疑問や思いを受け止められるよう、日々患者さまの言葉に耳を傾けています。

私は昨年10月から半年間、認定看護師教育機関で学習し、今年6月に行われた認定審査試験に合格し、手術看護認定看護師となりました。期待される能力の一つとして「手術決定から回復期の周術期にある患者・家族の権利を擁護し、自己決定を尊重した看護を実践できる」ことが挙げられています。手術を行うのは医師ですが、全ての決定権は患者さまがお持ちです。手術に対する様々な思いを伺い、ときには医師への代弁者となり、患者さまが主体的に手術を乗り越えられるように、ご本人やご家族と関わっていきたくと考えています。手術に対する不安や疑問、どのようなことでも結構です。遠慮なくお声をかけいただければ幸いです。



緩和ケア認定看護師 佐藤 有岐

はじめまして。私は今年7月に緩和ケア認定看護師資格を取得しました。緩和ケア認定看護師とは、患者さまやご家族の抱えている辛さや悩みが少しでも軽くなるようお手伝いさせていただくことを専門としている看護師です。

人は病気になると体の苦痛だけでなく、病気に関する不安や治療費などの経済的な心配、家族に迷惑をかけてしまうのではないかと、死んでしまうのではないかとという思いなど、様々な辛さを体験します。また多くの場合、患者さまを支えているご家族も辛い気持ちになります。このような辛さや悩みを和らげるために存在しているのが私たち緩和ケア認定看護師です。外来では病気や治療に対する不安、日常生活で困っていることなどのお話を聞かせていただきます。また体に辛い症状がある場合、患者さまのお話を伺うことで状態の把握をし、医師や薬剤師とともに薬剤の調整などを行います。入院中の方に対してはお部屋に伺い、症状のコントロールや日常生活の支援、在宅生活に向けたお手伝いをします。

様々な不安や辛さは、病気の診断を受けたときから現れます。そのようなとき、患者さまやご家族とともに不安や辛さが軽減できるよう、そしてみなさまが自分らしく生活できるようお手伝いをさせていただきたいと思っています。心配事がありましたら、遠慮なくお声をかけください。本格的な活動はこれからですが、一人でも多くの方と関わることができるよう努力していきます。どうぞよろしくお祈りします。



医師ごあいさつ

平成27年7月より春日部中央総合病院に赴任しました野田祐基と申します。東京慈恵会医科大学外科学講座に所属しており、以前まで東京都葛飾区の大学病院で外科診療を行ってまいりました。赴任したばかりで不慣れなことも多く、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、1日でも早く新しい職場に慣れ、患者さんの健康に貢献できるよう精進して参ります。宜しく御願い致します。

外科 野田 祐基 (のだ ゆうき)